Panasonic

建築設計 REPORT

ARCHITECTURAL DESIGN REPORT

vol.55 2025・11

特集――共創による〝まち育て〟



山田 崇

Yamada Takashi［株式会社ドコモgacco　Chief Learning Officer］

地域や職域を超える「越境」を続け、小さな実践を積み重ねて未来をつくる

過疎や高齢化などの社会課題を抱え、地方創生の現場で努力している自治体は多い。そこでは、これまでの役所中心や民間主導ではなく、行政・産業・住民をつなぎ、コーディネートできる人材が求められている。塩尻市役所の職員でありながら、市民として空き家を活用した活動を立ち上げ、地方創生、関係人口創出や官民連携事業に従事。現在は株式会社ドコモgaccoのChief Learning Officerを務め、信州大学ではキャリア教育・サポートセンター特任教授、また、内閣府の地域活性化伝道師でもある「越境実践者」、山田 崇氏に、小さな実践から実証モデルを育て、地域の未来像を描くすべをたずねた。

塩尻市役所から越境して公務員の見方が変わった

― なぜ、塩尻市役所に勤めるようになったのですか。

実家が農家で、当時は農作業が嫌いで千葉大学の工学部に入学したものの、卒業時は就職氷河期の入口頃。親の勧めもあって塩尻市役所を受けると就職が決まりました。最初に配属されたのは税務課、次は財政課財産管理係で、どちらも面白く、建築や不動産に関する知識は今後のキャリアに役立つのではと考えていました。それまで、どちらかというと公務員の仕事を甘く考えていた私が「公務員の可能性って凄いのでは」と考えを改めたのは、2005年の特別地方公共団体である松本広域連合への出向がきっかけでした。松本広域連合は、長野県の19市町村・44万人圏域（当時）で広域消防を行うために誕生した組織です。当時、各市町村から消防職員や機材が移管され、最新の指令システムが導入された巨大な消防局となり、圏域外からも優秀な人材が集まっていました。その後、介護保険認定や観光振興、人材育成も広域で担うようになっていました。特別地方公共団体なので、自治体がやる事は全てやります。私は総務課で会計や監査、人材育成も担当し、いくつもの仕事をこなすことで、自治体の仕事が概観でき、とても勉強になりました。

2009年4月に塩尻市役所に戻ってきた時に配属されたのが市民交流センター開設準備室です。市役所には、私以外にも経済産業省関東経済産業局や長野県庁などの出向先から、「越境」して戻ってきた人たちがいました。私は、出向先で得た学びや気付きを、もとの職場でも役立てることはできないかと考えました。そこで、出戻ったメンバーを巻き込み、毎月第4木曜日の18時から3時間集まる勉強会「しおラボ」を開催。若手にも声をかけ、問いを立てて対話するという取り組みを17人で始めました。毎回一人、ゲストを招いて勉強会を開催し、肩書きを外した縦割りの組織に横の対話を持ち込んだワールドカフェ的な交流会を50カ月続けました。石山恒貴さんの著書『越境学習入門』に、「越境学習者は二度死ぬ」という言葉があります。1度目はカルチャーショックで死ぬ、慣れてきて戻ってみると、元の組織に合わなくて、順応させられて越境体験がなくなり、死ぬ。当時、この本は出版されてはいませんでしたが、私は越境は1回やって終わりではなく習慣化しなければいけない。また、帰ってきた時に、外の視点を持ったまま仲間づくりをする必要があると考えたのです。

CONTENTS

特 集：共創による“まち育て”

SPECIAL INTERVIEW
山田 崇 氏 …… 1

SPECIAL EDITION
TOYOTA ARENA TOKYO …… 5
香川県立アリーナ あなぶきアリーナ香川 …… 11
King of the Hill …… 13
豊中ローズ球場 …… 15
JR総武本線 隅田川橋梁ライトアップ …… 17

RECENT PROJECTS
ONEライフスター株式会社 ほっとふぁみりい／ほっと＋プラス …… 19

くらしは文化
旧武徳殿 …… 21

＊本誌では略称を用いています。また、一部敬称は略させていただきます。
表紙写真：TOYOTA ARENA TOKYO

1　大門商店街の旧店舗をリノベーションしたシェアハウス「en.to」の前に立つ山田 崇 氏

怒られて謝ることで新しいプランが生まれた

— 市民交流センター開設準備室の仕事はどうでしたか。

市民交流センター「えんぱーく」の開設準備室時代に、強烈な体験をしました。オープン前のイベントでマルシェを開いた時に、ひとり親家庭の団体が100円で販売している飲料を、良く考えずに他の団体が半額で売ることを私が了承したところ、100円で販売することで団体の活動費を捻出していた女性に30分近く、怒られ続けました。その時、自分で体験しないと当事者の気持ちは分からないのではないか。「えんぱーく」という市民交流を促す施設を運営していくには、給料をもらって勤める行政の立場も重要だが、土日や時間外だけでも良いから自ら市民として体験しないと、課題が理解できずに解決にたどり着けないのではと考えたのです。それが1軒の空き家を借りる事につながっていきます。ちなみに、私を怒ってくれた女性とは、その後、ひとり親家庭への新たな支援のプロジェクトを通してとても仲良くなりました。

塩尻市の「空き家問題」は「困りごと」だった

— 空き家を借りて何をされたのですか。

17回目の「しおラボ」では、「魅力ある商店街を考える」というテーマで、商店街のレストランを貸し切って、商店街の方にプレゼンテーションしていただきました。当時、JR塩尻駅前の大門商店街は130軒の内約30軒が空き家でした。その場で、「自分で1軒借りる」と宣言してしまいました。肌感覚や現場感がなく、当事者でないので現状や課題が分からない。それなら、借りてみようと。商店街の空き家を借り始めて分かったことの一つは、多くの大家さんは高齢の女性で、空き店舗の掃除や管理ができなくなっていることでした。そこでお掃除をイベントにしました。空き家でやってみたいことを「○○なのだ」と名付け、その一つが「空き家をお掃除なのだ」。私たちが空き家を片付けるイベントをして、綺麗になった後に大家さんと一緒に食事をします。会場使用料を払い、トークゲストとして謝金も払いました。大家さんに聞くと、亡くなったご主人への申し訳なさを語る方が結構おられました。綺麗になった空き家をどうしましょうかと聞くと「若者たちが借りてくれるなら、まちも元気になるし、天国のお父さんも許してくれると思う」ということで、貸す方も借りる方も負担がないように、まずは3カ月借りることにしました。しかし、このプロジェクト最終的には11年間続くことになりました。



大門商店街のnanoda外観（2019年） 撮影：望月葉子

nanodaはアートなのだ

— なぜ「おかしな公務員」として知られはじめたのですか。

空き家を借りるプロジェクトを個人として進めていたのですが、アーティストから「山田さん、それはインスタレーションだよ。プロジェクトに名前を付けて記録して公開するとアート作品になるよ」と言われました。そこで、ホームページを立ち上げて「○○なのだ」の記録を公開していきました。そこで、良く分からないことをしている公務員がいる事が知られ、「ホームページで見ました」という視察の依頼が来るようになりました。アーカイブを作ったことで、多くの仲間と出逢うことができました。2014年にはTED※登壇のオファーをいただきました。6カ月間かけて、18分以内のプレゼンテーションを作成して「TED×saku」に出演しました。半年もしないうちに約3万件の「いいね!」をいただき、「公務員らしくない変なやつ」と言う観点から関心を集めました。この時の映像は今でもネットで見ることができます。その後、各種媒体で紹介され、個人的に年間100回程の講演依頼が来るようになりました。地方創生協働リーダーシッププログラム「MICHIKARA」が生まれ、その後、新規事業や実証実験ができる地域や自治体を探している民間企業にも注目されるようになりました。

山田 崇 氏

株式会社ドコモgacco　Chief Learning Officer
信州大学 キャリア教育・サポートセンター 特任教授／内閣府 地域活性化伝道師。
1975年、長野県塩尻市生まれ。千葉大学工学部応用化学部卒業。1998年、長野県塩尻市役所入庁。地方創生、関係人口創出や官民連携事業に従事。2022年、24年間勤務した塩尻市役所を退職し、株式会社NTTドコモgaccoに転職。現在は「地域越境ビジネス実践プログラム」の責任者を務める。
信州大学では「地域活性化システム論」「アントレプレナー実践ゼミ」「ローカルイノベーター養成講座」を担当。
書籍『日本一おかしな公務員』（日本経済新聞社）

※TED（Technology Entertainment Design）：「広める価値のあるアイデア」について語る講演会を開催するアメリカの非営利団体。講演動画がインターネット上で公開されている。

官民協働のモデル「MICHIKARA」

— 「MICHIKARA」とは何ですか。

「MICHIKARA」とは、人材育成プログラムと課題解決プログラムを組み合わせた、民間企業と行政のどちらにもメリットがある越境プログラムです。毎回、塩尻市から提出される5〜6件の「解決したい地域課題」を民間企業と市役所職員で構成されたチームで解決策を探ります。民間企業は次世代リーダーになる人材を送り込み、他企業や公務員の人材と協働します。全く思考方法が異なる人たちと一緒に働くことでリーダーシップが磨かれます。ネーミングには市民・企業・市役所が価値観や立場を超えて協力する「3つの力」、新しい価値観を見出す「未知から」、そして「この道から」新しい未来を創るのだという意気込みを込めました。これ以降、東京の有名企業が続々と塩尻市を訪れるようになりました。官民協働がうまく機能した非常に珍しい事例でグッドデザイン賞も受賞しました。


年間100回程の講演依頼の中の１例、ライジングフィールド軽井沢で行った軽井沢ラーニングフェス「進化思考ワーク」（2024年10月）



小さなdoで始めて謝ってPをつくるサイクル

— 多様なプロジェクトをどのように企画されたのですか。

PDCAサイクルという考え方がありますが、計画を立てるのが仕事の行政では、きちんとしたP（Plan）をつくろうとするあまり、止まってしまうことが多くあります。そこで私はプライベートな時間をつかってnanodaのプロジェクトではPを飛ばしてみました。「何か面白そうだからやってみよう」と、小さな「小文字のdo」からスタートするのです。そうするとC（Check）が入って叱られることも多くありました。私にとってのAは謝る（Apologize）のAなのです。謝って軌道修正すれば新たなPの姿が見えてきますし、また、謝ればさらに精度の高いPができます。先程話した30分怒られた事で、空き家を借りる事になったのも一つの例です。OODAループという考え方もあり、前例のないことでも観察（Observe）すれば方向性（Orient）がわかる。それで決めて（Decide）、行動（Act）する。これは「nanoda」でやっていたことと同じです。現場に行って、とりあえず1回やってみる。やってみたことを公開すると、景色がまた変わってくるので次の方向性が見えてくのだと思います。

官から民への越境と東京・塩尻の2拠点居住

— 市役所は辞められたのですね。

2022年4月にNTTドコモに転職し、株式会社ドコモgaccoに配属となりました。その前の2年間はコロナ禍で、それまで年間約190回行っていた対面の講演がオンラインに変わり、350回程に増えてしまいました。同僚の市役所職員がコロナ禍でワクチン接種やマスク給付で大忙しの時に、私は家に籠もって講演をしていました。市役所職員として求められていることと、個人山田 崇へ全国各地から依頼されることが異なってきたのも理由の一つです。「MICHIKARA」を6年間やってきたことで、後輩たちは頼りがいのある人材に育っていました。そこで今度は、公共から民間企業へ、アナログからデジタルに、1つの地方自治体から1741の地方自治体に、越境を試みたのです。入社後はオンライン動画学習を担当し、現在は、ドコモgaccoの本社がある麻布十番と長野県との2拠点居住をしています。これも、公務員時代に東京に働いたり住んだりしたこともないのに、よく東京から人を呼ぼうと考えたな、という振り返りからの実践です。現在は、麻布十番駅前のスナックを貸切「越境スナックなのだ」や新橋駅前で270年続く酒屋と「ワインなのだ」を不定期開催しています。地域の課題は現場の中で見えてきます。問いを立て、小さな「小文字のdo」で実践を重ね、踏み出す勇気と面白がる力で越境し、未来を創造する挑戦を続けて行きたいと思っています。

— ありがとうございました。

TOYOTA ARENA TOKYO



MAIN ARENAに設置された高さ7.6m×幅11.5m×奥行6.0mの高品質・高精細LEDのセンターハングビジョンはアリーナの用途に応じて昇降可能。
国内アリーナで初めて上下2層リボンビジョンを導入。上層リボンの高さは2mあり、原寸の車の映像がアリーナ内周を駆け巡る演出も可能となっている

「365日の賑わいを創出」する多目的複合施設型アリーナ

TOYOTA ARENA TOKYOは、臨海副都心の青海に位置する多目的アリーナ。バスケットボールクラブ、アルバルク東京のホームアリーナであると同時に、音楽ライブやMICE※など、多様なイベントに対応可能。最大収容人数約1万人のMAIN ARENAや、バスケットコート1面を有するサブアリーナ、屋外パークなどによって構成される大規模複合施設である。

当施設は、政府が主導する「スタジアム・アリーナ改革」と連携し、スポーツ庁および経済産業省により、地域活性化の起爆剤となる潜在力の高い「多様な世代が集う交流拠点としてのスタジアム・アリーナ」のモデル施設（令和4年度）に選定されている。選定にあたっては、民設民営アリーナであることや、特徴のあるホスピタリティエリアやラウンジなど、多様なスポーツ観戦方法を提供していること、高品質な照明・音響・映像設備によって観戦価値を高め、多目的に利用できるアリーナであることが評価された。屋外パークなどは、イベントのない日には地域住民も利用できるため、「スタジアム・アリーナ改革」がめざす「365日の賑わい創出」という公共性を体現している。

※会議（Meeting）、研修旅行（Incentive Travel）、国際会議（Convention）、展示会、イベント（Exhibition/Event）の頭文字を使った造語



TOYOTA ARENA TOKYO

所在地／東京都江東区青海
土地所有／トヨタ自動車株式会社
建物所有／トヨタ不動産株式会社
運営／トヨタアルバルク東京株式会社
設計・施工／鹿島建設株式会社
電気工事／株式会社 きんでん
大型映像、映像送出、音響設備専門工事／パナソニックEWエンジニアリング株式会社
デジタルサイネージ工事／NTTドコモビジネス株式会社
開業／2025年10月
規模／地下1階・地上6階建（延床面積：約38,000m²）





光・音・映像の総合演出システムにより没入型エンターテインメント体験を提供

MAIN ARENAは、全ての観客席からバスケットボールコートが見やすい楕円（オーバル）型で、可変式座席レイアウトにより、バスケットボール試合（約1万席）、コンサート（約8千席）、MICEと、用途に最適化した空間をつくり出すことが可能である。

MAIN ARENAの競技用照明は、国際バスケットボール連盟（FIBA）基準に準拠したLED照明器具「グラウンドビームER」で、DMX制御により個別に0～100％までの調光が瞬時に可能。また次世代の「4K8K放送」にも対応しており、高精細な映像と高い演色性を実現し、アルバルク東京のクラブカラーを、より高彩度で再現している。

音響設備は、国内アリーナで最大規模※1の11連ラインアレイスピーカー8セットとディレイスピーカー28台による迫力ある音響を提供。映像設備はセンターハングビジョンとリボンビジョン合わせて、総面積約1,000m²を超える国内アリーナ最大級※1。これら照明・音響・映像設備をIT/IPプラットフォーム「KAIROS（ケイロス）」によって統合制御することで、没入型エンターテインメント体験を提供。約130台あるデジタルサイネージにコンテンツも供給している。

また、MAIN ARENAのホスピタリティエリアには、ホテルクオリティの食事が楽しめる最上級ラウンジや入退場の選手が間近で見られるラウンジ（1階）をはじめ、パーティースタイルで観戦できるラウンジやスイート（2・3階）などが配置されている。

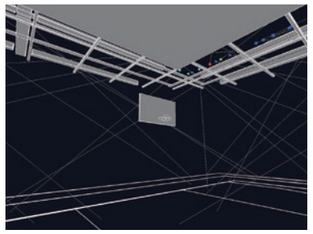
トヨタアルバルク東京株式会社　アルバルク事業部　運営企画室室長兼アリーナ事業部運営企画室 ICT管理グループ GM 小川裕己氏は「今後の海外展開を考えると、4K8K放送でアルバルク東京のクラブカラーが正確に放映できるというのは大きなポイント。『KAIROS』は1つのボタンで複雑な演出や多彩な連動が可能なので、スタッフの作業が省力化できることが魅力的。来場者に、毎回変化した非日常が体験いただける、進化するアリーナになっていきたい」と語る。



FIBA※2認証を取得した業界唯一の照明器具である「グラウンドビームER」を競技用に112台設置



グレア（まぶしさ）を低減するために一部照明器具にルーバーを設置



当社独自の3Dシミュレーション技術で、競技者視点でのグレアや照射角度の最適化を事前検証



防災センターの「ESU-BA」照明制御システム



アリーナ中央の天井に設置された11連ラインアレイスピーカー



キャットウォーク上に配置されたアンプ設備



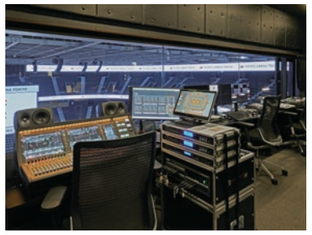
3階エントランスのファサードに設けられたLEDビジョン



液晶ディスプレイでは、メニューや季節ごとのお勧めなどを表示



アリーナ内の照明・映像・音響設備・サイネージを一括制御できる総合演出システム「KAIROS」



アリーナの状況を見ながらアリーナの演出が行える操作卓

◀（上）センターハングビジョンの周囲に配置されたラインアレイスピーカー（○印）。センターハングビジョンはコートサイドからも演出を楽しめるよう内部ビジョンも装備している
（下）エントランスからアリーナに向かうアプローチには柱廻りにデジタルサイネージを設置し、天井のルーバーにライン照明をランダムに配置して来場者の動線を誘導

※1 国内のプロバスケットボールを興行として行うアリーナとして（2025年6月時点、パナソニック調べ）
※2 FIBA：Fédération Internationale de Basketballの略称（国際バスケットボール連盟）







スポーツバー型ラウンジの"JAPAN AIRLINES LOUNGE"



緑あふれる内装の"JAPAN AIRLINES TERRACE SUITE"「BOTANICAL」



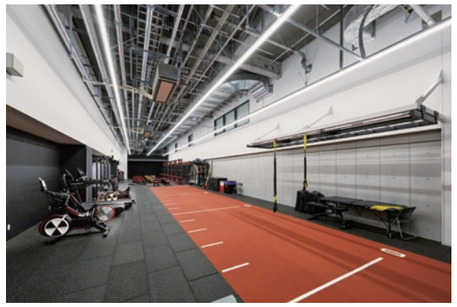
部屋の中だけでなくバルコニー席からも観戦できる"SUITE"



入退場の選手が間近で見られる“PLAYERS LOUNGE”



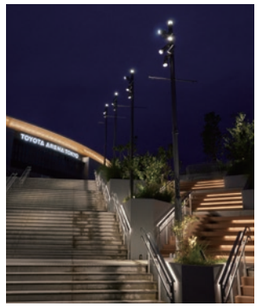
観戦席の後ろにプレイスペースを設置し、子ども連れでも
観戦が楽しめるように設計された"FAMILY ROOM"



トレーニングルームに設けられたライン照明器具



コンコースの各所にカラースポットライトにより
アルバルク東京のクラブカラーの演出がされている



エントランスに続く階段を照らす
スポットライトと足元灯

主な納入設備

- LED投光器
- 照明制御システム
- LEDセンターハングビジョン
- 昇降装置
- LEDリボンビジョン
- 総合演出システム(KAIROS含む)
- サイネージシステムOneGATE
- ラインアレイスピーカー
- ディレイスピーカー
- 音響設備
- LEDダウンライト
- LEDスポットライト
- LED高天井用照明器具

WEBサイトで
照明演出とインタビューの
動画がご覧いただけます

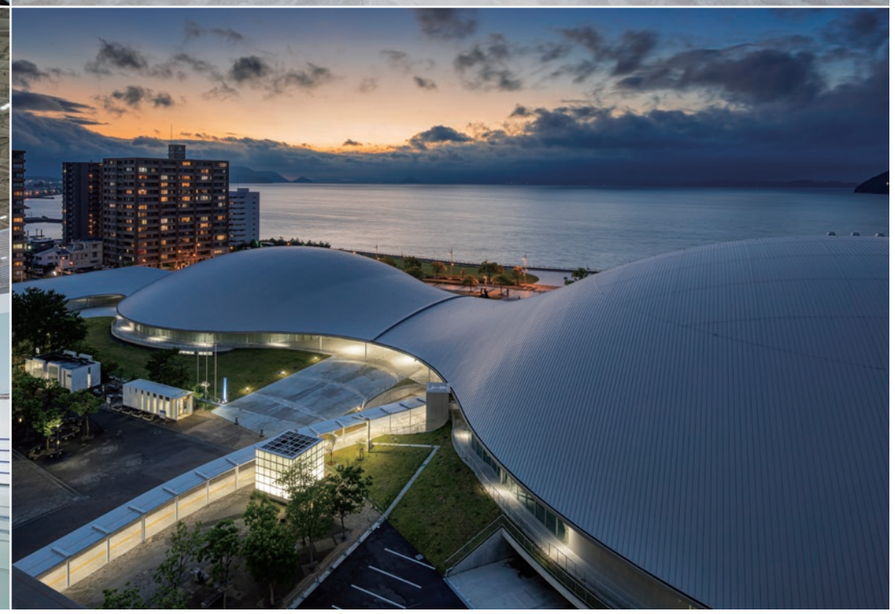
◀（上）バスケットボールコート1面と、壁面にバスケットゴール4基が
設置された練習場の高天井用照明器具と得点表示用LEDビジョン
（下）アリーナ最上級ラウンジ"TOYOTA PREMIUM LOUNGE"。
ラウンジ内をはじめ、会場内全ての映像表示システムを「KAIROS」から操作できる（国内アリーナ初※）

※国内のプロバスケットボールを興行として行うアリーナとして（2025年6月時点、パナソニック調べ）









（左上）約78m×48mの競技フロアと中四国最大の5,024席の固定観客席を備えたメインアリーナ　（右上）約47m×38mの競技フロアと1,002席の固定観客席を備えたサブアリーナ
（左下）観客席（写真右上）との間に壁を設けないことでアリーナとの一体感が演出された交流エリア　（右下）建物全体が際立つように円弧状大屋根の軒下に設けられたダウンライト

香川県立アリーナ

あなぶきアリーナ香川

訪れる人びとにも開かれた曲線で構成された多目的アリーナ

SANAAの設計による「あなぶきアリーナ香川」は、瀬戸内海に面した立地環境と地域文化に調和する開放的なデザイン。東側にメインアリーナ、中央にサブアリーナ、その西側に武道施設という3つのボリュームが連なり、それらを一体的に覆う緩やかな曲線を持つ円弧状の大屋根を特徴としている。施設へは多様な方向からアクセス可能で、試合やイベントがなくても人びとが気軽に立ち寄り、回遊できるよう計画されており、エントランス広場や交流エリアなど、建物内外に公共空間が確保されている。メインアリーナは、固定観客席5,024席で最大収容人員は約1万人。天井高は最大約27.6mが確保されており、バレーボールやバスケットボールなどの室内競技だけでなく、コンサートやMICEにも利用可能な多目的アリーナとして計画されている。メインアリーナでは高天井用照明器具230台がドーム内のトラスに配置されており、競技種目や用途に応じて小型記憶調光システム「シーンマネージャーG」によって照明シーンの切り替えが可能。交流エリアは観客席との間に壁を設けないことでアリーナとの一体感が確保されており、試合やイベントが開催されていない時も人びとが集い、ともに楽しめる場となっている。

あなぶきアリーナ香川

所在地／香川県高松市サンポート
事業主／香川県
設計／SANAA（妹島和世＋西沢立衛）
建設工事／大林・合田・菅特定建設工事共同企業体
電気設備工事／四電工・三和電業特定建設工事共同企業体
空調設備工事／三建設備・三喜工事・雉鳥工業特定建設工事共同企業体
オープン／2025年2月
規模／地下1階・地上2階（延床面積：28,975m²）



エントランスを照らすLED高天井用照明器具。
イベントが開催されない時も地域に開放されている



可動間仕切りにより3分割可能な武道施設は
多目的ルームとしても利用される



アリーナ全体の設備を監視制御する
統合監視システム「ESU-BA」



照明制御システム「FreeFit light」

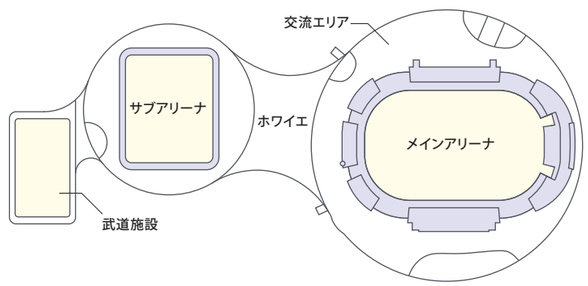


サブアリーナの機械室に設置された
吸収式冷温水機



メインアリーナの放送席に設置された
小型記憶調光システム「シーンマネージャーG」

平面図（2階：交流エリアレベル）



主な納入設備

- LED高天井用照明器具
- LEDダウンライト
- 照明制御システム
- 統合監視システム
- 吸収式冷温水機









（左上）間接照明や屋内から漏れる光で彩られたKing of the Hill　（右上）2人の投手が同時に投球練習ができるブルペンに設置された高天井用照明器具
（左下）施設中央に設けられたテラスにはトップライトから自然光が降り注ぐ　（右下）落ち着いた光環境で施設利用者や見学者がくつろげるカフェエリア

（左下）（右上）写真提供: A3 design Inc.

King of the Hill

次世代の「マウンドの王者」を生む思いが込められた屋内練習施設

2024年11月、花巻東高等学校に隣接して、菊池雄星投手がプロデュースした全天候型複合野球施設「King of the Hill」がオープンした。施設名称は「マウンドの王者」を意味し、メジャーリーグで勝利投手をたたえる言葉に由来しているという。菊地投手が構想開始から約6年間、資金を投じて建設した施設は、初心者の子どもからプロ野球選手まで、「野球を愛する全ての人が夢を持つことを応援し、その夢の実現のための環境を整える」ことがめざされている。ブルペンのマウンドには高速撮影カメラや各種センサにより投球を解析するシステムが組み込まれており、精密なフォーム矯正や球質向上の指導を受けることができる。バッティングエリアでは打撃レーンが2つ設けられ、メジャーリーグでも採用されている自動投球マシンや最新のシミュレーションシステムも導入されている。設計にあたったA3 design Inc.代表取締役の柏木茂洋氏は「建物の中心に『Hill』として中庭を設けた。ここに立てば、建物内が一望できる。部活動の場合はここに集まり、各自の練習メニューに分かれるように計画した。照明計画では自然光を生かしながら、コントラストを重視。間接光とスポットライトを効果的に用いて空間の美しさを追求した」と語る。



King of the Hill

所在地／岩手県花巻市南新田
事業主／菊池雄星
監修／菊池雄星
PM・運営／合同会社K.O.H
設計／A3 design Inc.
建設工事／株式会社伊藤組
電気工事／新高電気株式会社
竣工／2024年11月
規模／延床面積：約1,400m²



間接光で壁面を照らすコーニス照明により
菊地投手の業績を浮かび上がらせているギャラリー



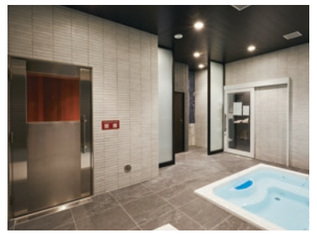
筋力・体力強化のためのジムエリア



間接照明によりK.O.Hのロゴが際立つ
ミーティングルーム



ダウンライトで壁面を浮かび上がらせている
ロッカールーム



リカバリーエリアのサウナ（写真左）とジェットバス



駐車場に設置された
EV・PHEV充電器「ELSEEV hekia S」

施設平面図



主な納入設備

- LED建築化照明器具
- LEDダウンライト
- LED高天井用照明器具
- LEDスポットライト
- LEDペンダント
- プロジェクター
- EV・PHEV充電器



6基のLED照明塔により（写真では2基が見える）均斉度の高い照明環境が確保されたグラウンド。近隣に大阪国際空港があるため全国からのアクセス性にも優れる

豊中ローズ球場
（豊島公園野球場）

「高校野球発祥の地・豊中」で市民球場のナイター設備をLED化

1968年に開設された豊島公園野球場（愛称：豊中ローズ球場）は、1996年に「高校野球発祥の地・豊中」のメモリアル球場として再整備。バックスクリーンやナイター設備も有する公式試合球場となり、全国高等学校野球選手権大阪府大会やプロ野球ウエスタン・リーグ戦などが開催されていた。今回の大規模改修工事では、老朽化対策や安全対策が実施され、施設内の全照明をLED化。ナイター設備もLED投光器に一新された。また、球場内に「高校野球発祥の地・豊中ミュージアム」が新たに開設されている。

豊中市都市活力部スポーツ振興課の山村憲二課長は「夏の全国高校野球の前身である『全国中等学校優勝野球大会』の第1回、第２回大会が開催された豊中グラウンドは大正末期に廃止されたが、『高校野球発祥の地・豊中』にふさわしい球場として豊中ローズ球場の改修工事を行った。豊中市は行政運営の基盤としてシビックプライドの醸成を挙げており、その一つが『高校野球発祥の地』。空港に近く、アクセス性に優れた球場を都市活力の核と捉え、官民の協働で育てていこうと考えている。豊中市立文化芸術センターや豊中つばさ公園『ma-zika』とともに、地域のにぎわい創出につなげたい」と語る。



豊中ローズ球場

■大規模改修工事
所在地／豊中市曽根南町
事業主／豊中市
指定管理者／奥アンツーカ株式会社
設計／株式会社梓設計
電気工事／きんでん関西サービス株式会社
リニューアル竣工／2024年12月



明るい昼間でも視認性の高いフルカラーLEDスコアボード



バックネット裏に設置された
スコアボード表示システム



改修にあたって座席も一新されたメインスタンド



照明塔の光害対策LED投光器は灯数を6割に抑えつつ
JIS規格クラスⅡ（全灯時）を満たす照度を実現



グレア抑制や照度分布図などシミュレーションを重ね、
1台ごとに角度調整されたLED投光器



LED化されたエントランス照明



新設された「高校野球発祥の地・豊中ミュージアム」

主な納入設備

- 光害対策LED投光器
- 照明制御システム
- 野球場スコアボード表示システム
- LED照明器具
- 放送設備
- 低圧分電盤



浅草橋駅・両国駅周辺に訪れる人や隅田川テラスや観光船を利用する人たちを魅了するJR総武本線隅田川橋梁ライトアップ。
アーチ端部、支柱下部にカラー演出投光器を設置してプログラムにより点灯・揺らぎ・流れなどを演出している。
写真は優しい電球色の揺らぎが寄り添い、まちに溶け込む通常演出

JR総武本線

隅田川橋梁ライトアップ

隅田川に架かる歴史ある鉄道橋をダイナミックにライトアップ

1932年に架けられた鉄道橋の隅田川橋梁は日本初のランガー型橋梁※（全長約172m）で、中央橋脚間がアーチ構造となっている。完成から90年以上が経過した、重量感のある鉄鋼桁と堅固な橋脚は、隅田川の景観の重要な要素として親しまれている。この橋が「歴史・文化の街に映える、伝統と彩（いろどり）の鉄道橋」のコンセプトのもと、2025年9月からダイナミックにライトアップされている。アーチやアーチ支柱部に投光照明を行うことで、橋梁をライトアップ。LEDフルカラー投光器「ダイナワン」72台が彩りを演出している。

通常時は暖色系の穏やかな照明で橋全体を包み込み、電球色の光が揺らめくように幻想的な光景をつくり出す。日没から23時までの毎正時になると、両国国技館の守護神「四神」にちなんだカラフルなライトアップが約3分間繰り広げられる。さらに、年中行事やイベント時には特別演出が行われる。ライトアップの演出確認にあたっては、「ライトニングフロー」と「汐留サイバードーム」によるVRシミュレーションが実施された。このライトアップには、東京都と公益財団法人東京観光財団の「建造物等のライトアップモデル事業費助成金」を活用した都市景観形成と地域活性化を図るモデルケースとなっている。

※橋桁とアーチ部材が直列に配置されたアーチ橋の一種。　提案者ランガーにちなんで名付けられた。

JR総武本線 隅田川橋梁ライトアップ

所在地／東京都台東区・墨田区
事業主／東日本旅客鉄道株式会社
照明設計／パナソニック株式会社 エレクトリックワークス社
電気工事／日本リーテック株式会社
ライトアップ開始／2025年9月



【毎正時】
四神の青龍（東）を表す水色のライトアップ



【毎正時】
四神の白虎（西）を表す白色のライトアップ



【毎正時】
四神の朱雀（南）を表すピンク色のライトアップ



【毎正時】
四神の玄武（北）を表す紫色のライトアップ



【特別演出】
ピンクのグラデーションが揺らぐ



【特別演出】
緑のグラデーションが動く

サイバードームによるVRシミュレーション



橋桁上から見た「ライトニングフロー」での
シミュレーション



隅田川の船上から見た「ライトニングフロー」での
シミュレーション

主な納入設備

- LEDフルカラー投光器
- DMXスポットライト
- 制御装置

ウェブサイトでも
ご覧いただけます

ONEライフスター株式会社

ほっとふぁみりい／ほっと＋プラス※1

熊本県益城町に耐震工法で建設した福祉避難所となる介護施設

2016年の熊本地震で、最大震度７を記録した熊本県益城町。「大きな揺れが2回もあった。デイサービスの建物に、地震の2日後ぐらいから車いすの方などが押し寄せるように来られたので、夜も職員を配置。『福祉避難所』になった」と震災前から益城町で介護サービス事業を手がけていたONEライフスター株式会社（当時は有限会社ほっとふぁみりい）代表取締役の赤星淳子氏。益城町は熊本市のベッドタウンで空港や九州自動車道ICがある交通の要所だ。一方で、町内でも緑川水系の河川が流れる地域は、地震だけでなくたびたび水害にも見舞われている。この度、道路整備に伴い、町内に2つあった通所介護施設を水害の可能性が低い場所に統合し、テクノストラクチャー工法で、耐震性の高い建物を建設した。「３社にプレゼンしてもらったが、コストよりも“安心面”で、丁寧かつ専門的な説明があった松栄住宅株式会社さんにお願いするのが一番と、管理者会議で決めた」と施設幹部の園村 千栄子氏。赤星氏は「柱のない広い空間を確保した２階建の施設。水害や崖崩れの心配がない場所に建つ耐震の建物だから、“いざ”という時は町のために一役買う」と語った。

※1 ほっとふぁみりいはレスパイト型（※2）、ほっと+プラスはリハビリ特化型 短時間の通所介護事業所
※2「介護者の休息」を目的とした支援スタイル



LED照明が明るく照らすデイサービスルームは、テクノストラクチャー工法により約19m×8mの広さを実現。
柱のない空間で要介護者を安心して見守れる他、車いすでの移動もスムーズになった



所在地／熊本県 上益城郡益城町大字宮園字一ノ迫
事業主／ONEライフスター株式会社
設計・施工／松栄住宅株式会社
竣工／2025年5月
規模／延床面積：約660m²
建築工法／テクノストラクチャー工法



木の梁に鉄を組み合わせ強度を高めた複合梁「テクノビーム」



地震の揺れを吸収する制震システム「テクノダンパー」
繰り返される揺れへの効力が期待できる



「テクノビーム」が可能にした車2台を
並べられる間口約6mの車寄せ



車いすの利用にも配慮して
広さが確保された小型エレベーター



２階の機能回復ルームもテクノストラクチャー工法により約16m×6mの広さを確保



LED照明でライトアップされた外観

主な納入設備

- 小型エレベーター
- 内装ドア「VERITIS」
- LED照明器具
- 「壁掛け熱交換気システム」

京都府京都市

旧武徳殿

和風建築にトラスを採用し、吹き抜けの大演武場を実現

京都府京都市の旧武徳殿は、京都府技師・松室重光の設計で明治32（1899）年に竣工した日本最古の演武場。約200畳の板の間や観覧席を擁する近代和風建築に、トラス構造やレンガ積み基壇など西洋建築の技法を取り入れている。国指定重要文化財。



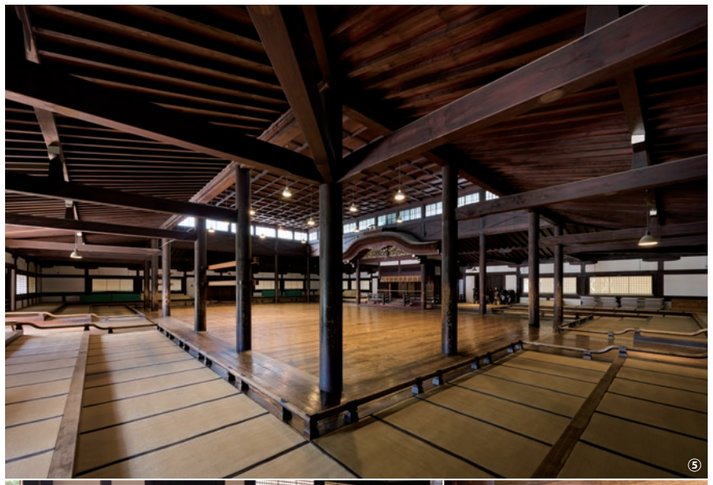
檜皮葺き、唐破風屋根の玉座がある旧武徳殿。高窓から入る自然光が館内を照らし、光源は直接、目に入ることがない。



①千鳥破風を頂く桟瓦葺き主屋根と緩やかに延びる裳階が大寺院を思わせる外観。
②舟肘木や角柱を用いた外壁に見られる半蔀。上半分を外側へ吊り上げて開く。



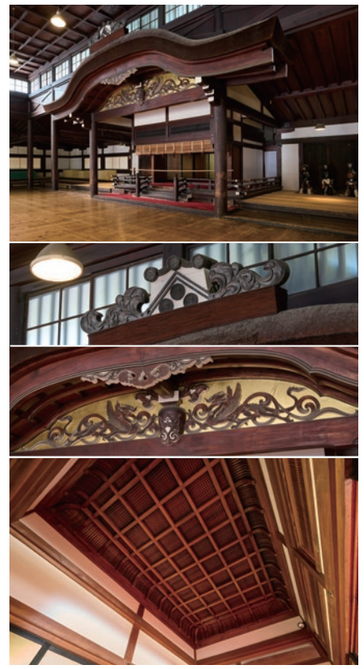
③玉座の背後にあたる位置に檜皮葺き、唐破風屋根の車寄せが増築された。
④車寄せには西洋絵画の影響を受けたと言われる亀岡式の装飾がみられる。







⑤板の間の四周を観覧席が取り囲み、スタジアムのような構成になっている。柔道などで使用する際は板の間に畳を敷き詰める。⑥観客席には高欄を回す。廊下側は登り高欄としている。⑦板の間の隅にある換気口。



玉座は前の間、玉座の間、控えの間で構成。ここにも亀岡式の装飾がある。玉座の間は折り上げ小組格天井。

平安期、桓武天皇は大内裏（だいだいり）の北西に建つ道場で武技を奨励したとする故事がある。平安遷都1100年にあたる明治28（1895）年、大内裏の大極殿を模して平安神宮が造営され、明治32年には、その北西に伝統的な武道の振興を願う大日本武徳会によって旧武徳殿が建てられた。これは、故事にちなんだ可能性があるといわれている。

旧武徳殿は単層で、切妻造の母屋に寺院を思わせる大屋根と緩勾配の裳階（もこし）が付く和風のたたずまい。白漆喰の外壁には平安期の住宅にみられる半蔀（はしとみ）がある。その一方、西洋式構造・要素も採用しており、折衷様式となっている。

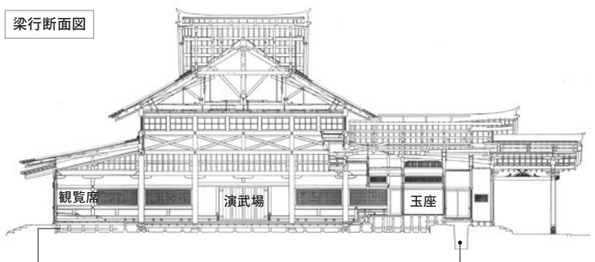
設計者の松室重光は伝統的な和風建築の様式を再構成するとともに、広大な板の間を設けるためトラス構造を採用、大スパンの架構を可能にした。松材の板の間は約200畳もの広さで、中心部に柱がない吹き抜けの大空間となった。下屋上の四方にガラス窓を設けたのも西洋建築の手法で、演武場内を自然光で均一に明るくする工夫である。板の間を取り囲む畳敷きの観覧席は裳階の下にしつらえられ、現在は3段の雛壇形式になっている。

創建時の旧武徳殿は「仮本殿」と称し、建て替えを前提としていた。そのため玉座は狭く、皇族席もなかったことから、大正2（1913）年、京都府技師の亀岡末吉が玉座の改築、車寄せ・武者溜（だまり）の新築を行った。亀岡の手がけた玉座・車寄せの蟇股（かえるまた）や木鼻、大瓶束（たいへいづか）などには「亀岡式」と称される流麗な装飾が施されている※。

その後、旧武徳殿は武術教員養成所の設置、アメリカ軍による接収、京都市警察学校の利用など、幾多の歴史を紡いできた。創建120年余を経た現在も剣道や柔道、なぎなたなどの競技・演武の殿堂として人々に親しまれ、国指定重要文化財にも指定されている。

※小規模な改変を昭和60年からの改修で大正期の姿に復元した。

梁行断面図



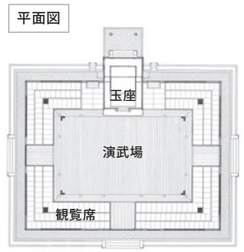


基壇に見られる煉瓦積みの換気口。



玉座の控えの間の地下通路。

平面図



出典：『旧武徳殿主屋修理工事報告書』

用語説明

【大内裏】皇居（内裏）や諸官庁を配置した一区画。平城京や平安京では中央北部にあった。

【裳階】寺院建築で建物外部の軒下に回した庇（ひさし）。本屋の軸部を裳裾のように隠すことからの名称。

【半蔀】上半分の外側を吊り上げるようにし、下半分をはめ込みとした部戸。

【木鼻】社寺建築で肘木や虹梁などの端が柱の外側に突出した部分。彫刻などが施される。

【大瓶束】大仏様建築にみられる瓶子形の束。

京都市左京区聖護院円頓美町
46番地の2　協力：京都市

くらしは文化バックナンバー

パナソニックの空間ソリューション

あかりと電気設備のデジタルショウルーム
電気設備BOX

パナソニック エコシステムズ ショウルーム
〒486-8522　愛知県春日井市鷹来町字下仲田4017番

カスタマーエクスペリエンスセンター
（パナソニック コネクト株式会社）
〒104-0061　東京都中央区銀座8丁目21番1号
住友不動産汐留浜離宮ビル
☎0120-878-410

※開館日や時間を変更したり、事前ご予約制とさせていただく場合があります。
ショウルームご来場の際には、ウェブサイトで事前にご確認ください。

パナソニック ショウルーム
住まいのショウルーム

札　幌　〒060-0809　札幌市北区北9条西2丁目1番地
☎0570-087-315

仙　台　〒980-0014　仙台市青葉区本町2丁目4番6号
仙台本町三井ビルディング内
☎0570-087-315

東　京（汐留）　〒105-8301　東京都港区東新橋1丁目5番1号
パナソニック東京汐留ビルB2F
☎0570-087-315

横　浜　〒220-0012　横浜市西区みなとみらい3丁目3番3号
横浜コネクトスクエア2F
☎0570-087-315

名古屋　〒450-8611　名古屋市中村区名駅南2丁目7番55号
☎0570-087-315

大　阪　〒540-6303　大阪市中央区城見1丁目3番7号 松下IMPビル3F
☎0570-087-118

広　島　〒730-8577　広島市中区中町7番1号 パナソニック広島中町ビル2F
☎0570-087-118

福　岡　〒810-8530　福岡市中央区薬院3丁目1番24号
☎0570-087-118

パナソニックのバーチャルショウルーム

お問い合わせ
パナソニックのソリューションに関するお問い合わせはこちら ➡

ワークプレイス
メイキング
をめぐる旅
A journey through workplace making

ワークプレイスやそれを取り巻く「場」をどう育てていくか、さまざまな事例にふれていきます。



Vol.05
移動するフェーズフリーのワークプレイス
TOYOTA「eXトレーラー(仮称)」
＋
大塚商会「次世代ハイブリッドLPガス電源車」

継続能力開発（CPD）
自習型認定研修

設問

次のうち誤っているものはどれか。

a. 建築ユニット「SANAA」が、あなぶきアリーナの設計を担当した。
b. 「King of the Hill」は、菊池雄星投手が私財を投じた複合野球施設である。
c. TOYOTA ARENA TOKYOは、東京・青梅にある多目的アリーナである。

関連情報は本誌に掲載されています。

建築士会CPD制度の回答は下記Webサイトから。
https://www.kenchikushikai.or.jp/cpd-new/cpd-index.html

この情報誌は、公益社団法人 日本建築士会連合会の継続能力開発（CPD）の「自習型認定研修」教材として認定されています。

発行：2025年11月　発行所：パナソニック株式会社 エレクトリックワークス社 コミュニケーション企画センター　発行人：上田昌弘
〒571-8686 大阪府門真市門真1048　https://panasonic.co.jp/ew/
© Panasonic Corporation 2025 本誌掲載記事、写真、イラストの無断転載を禁ず。